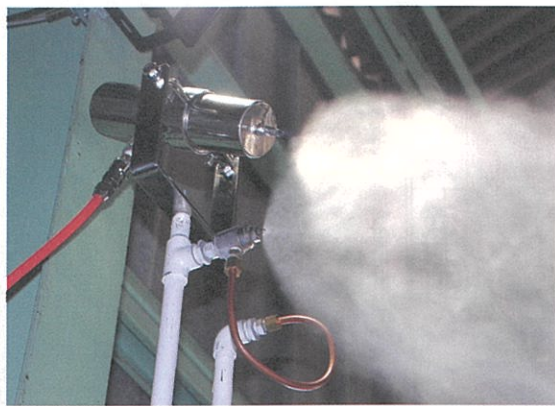


に覚えがある松原社長だが、開発には年月を要した。初めは圧縮空気を使い、次いでミストによる冷却装置の開発を進めたが、十分な冷却効果は得られなかった。そんな時、「圧縮空気とミストを掛け合わせてみたらどうか」と思い付いた。試作機が稼働した瞬間、効果を実感。「これはいけると思った」と振り返る。

山手工場ですらなる試作や公開テストを重ね、ある程度形になった2019年、水と圧縮空気だけで体感気温を10度近く下げられる「ミスト冷房装置」の特許を申請。今年1月に取得を果たした。テストに際しては、福山商工会議所やひろしま産業振興機構などにも立ち会ってもらい、アドバイスを受けた。「これを置きたい事業所は多



新技術の「MASTクーラー」



プラントでの作業

いでしょう」との言葉ももらったという。

作業環境改善を目指して開発に着手したため、「当初は製品化を考えていなかった」ものの、「特許を取ってはどうか」と勧められ、売り物として考えるようになった。作業現場には開発着手直後から装置を置いており、「これがない現場はもう考えられない」との声も上がっているそうだ。

小型で計量、設置も容易で屋内のみならず屋外でも効果があるだけに、製造現場や屋外の建設現場、学校、プールや体育館などの体育施設などから多くの需要が見込める。イベントでの活用など「いろいろなアイデアも頂いている」とか。生産本格化の後は、全てを内製するのでなく、他社と協業することも検討している。

福山のものづくり企業が、技術力で生み出した新製品。今後の展開が楽しみだ。

**【新規事業も次々展開】**

2001年に創業した同社。登記上本社である引野町北で事業を始めたが、今は入船町の事務所が事実上の本社として機能しているほか、山手町に自社工場を有する。

プラント関連以外に、リフォームやリノベーションなどを手掛ける一級建築士事務所としての事業、ブランドデザインやグラフィックデザイン、ウェブデザインなどのデザイン事業も行っている。ここに、MASTクーラーを扱うミスト空調機事業が加わることになる。「それぞれの事業が有機的に結び付き、会社として総合的に展開できれば」と松原社長。

自身について「何事においても理由や根拠がないことをするのは好まない」と分析する。経営理念に「日々の気付きを大切に、理想を技術で実現させる」を掲げており、「生き残るためには技術が必要だ」と思っている」と強調する。技術力向上を目標に努力する若い社員が少なくない。「そうした従業員が増えれば、もっと面白い会社になる」と目を細める。

現在も現場で過ごすことが多い松原社長。技術だけでなく、人との出会いも重要と話す。「会社をつくるのは人。人とどれだけ出会えるかが、社業の発展にもつながって

会社概要	
● 社名	(株)松栄エンジニアリング
● 代表者	松原寛社長
● 所在地	〒720-0801 福山市入船町1-3-28 (入船事務所) TEL.084-999-8123
● 設立	2001年
● 事業内容	プラント事業、一級建築士事務所
● 資本金	100万円
● H P	https://shoei-eng.co.jp/



デザイン事業も手掛ける

いく」

既存のプラント事業に磨きをかけてつつ、立ち上げて間もない一級建築事務所やデザイン事業も軌道に乗せることが当面の目標。「部門別に核となるものを探す。やみくもに手を広げるのではなく、どういうお客さんを探し、どこに力を入れていくべきかを絞り込んでいく」と展望を語る。

BUSINESS ZOOM UP  
**(株)松栄エンジニアリング**  
福山市入船町1-3-28 TEL.084-999-8123



松原寛社長

2001年創業の(株)松栄エンジニアリング(入船事務所=福山市入船町1-3-28)は、プラントの工事・設計などを柱としてきたが、このほど特許技術を駆使した次世代型クーラー「MAST(マスト)クーラー」を開発した。

一般建築士事務所の開設、デザイン事業への進出など新分野にも積極的な同社。「MASTクーラーは他に類似商品がない」と語る松原寛社長は、柱の一つに育てることを視野に入れる。

## 特許技術で次世代型クーラー開発 「理想を技術で実現させる」を社是にさらなる成長へ



松栄エンジニアリングの入船事務所

**【きっかけは職場環境改善】**

MASTクーラーは、圧縮空気と細かい霧状の水(ミスト)を組み合わせた新発想の冷却装置。フロングスやアンモニアなどの化学的な媒体を使わないため、環境負荷

が少ない。冷却効果も高く、同社のテストでは摂氏三五度のスペースで、体感気温を10度近く下げられるという。冷却効果に対するコストパフォーマンスに優れ、SDGs(持続可能な開発目標)に資する。

ポール式やタンク式などをはじめ、用途に合わせた仕様に仕上げている。

松原社長は「そもそもは作業環境の改善が目的でした」と明かす。同社の主な事業はプラントの設計・補修・設置などだが、作業を行う現場は屋根まで20以上の高さがあり、天井まで壁がない半屋外のような環境であることが多く、空間全体を冷やすことができないという。

局所的なスポットクーラーを置いて、作業員は常時その前にいられず、クーラーからの排熱によって作業場全体の温度はかえって上がってしまうという悪循環に見舞われていた。「現場が暑過ぎる。何とかできないか」という現場からの声を受け、松原社長が中心となって空間全体を冷やすクーラーの開発に着手した。

溶接工出身で、ものづくりの腕